

平成 28 年 7 月 10 日 (日) 施行

第 183 回 全経簿記能力検定試験 3 級 商業簿記 解説

第 1 問

1. 「元入れして営業を開始した」→資本金

(借) 現金 (資産) の増加 建物 (資産) の増加	(貸) 資本金 (純資産) の増加
--------------------------------	-------------------

2. 備品の未払

(借) 備品 (資産) の増加	(貸) 未払金 (負債) の増加
-----------------	------------------

3. 現金・掛仕入

(借) 仕入 (費用) の発生	(貸) 現金 (資産) の減少 買掛金(負債) の増加
-----------------	--------------------------------

4. 現金・手形売上

(借) 現金 (資産) の増加 受取手形 (資産) の増加	(貸) 売上 (収益) の発生
----------------------------------	-----------------

5. 買掛金の支払い

(借) 買掛金(負債) の減少	(貸) 当座預金 (資産) の減少 当座借越 (負債) の増加
-----------------	------------------------------------

6. 取得原価 ¥750,000 を ¥810,000 で売却したので、売却益 ¥60,000 (収益) が増加する

(借) 当座預金 (資産) の増加	(貸) 有価証券 (資産) の減少 有価証券売却益 (収益) の発生
-------------------	---------------------------------------

7. 給料総額から所得税などの源泉徴収分を預り金 (負債) として差し引いて支払う。

(借) 給料 (費用) の発生	(貸) 所得税預り金 (負債) の増加 当座預金 (資産) の減少
-----------------	--------------------------------------

8. 概算額の支払い

(借) 仮払金 (資産) の増加	(貸) 現金 (資産) の減少
------------------	-----------------

第2問

1. 期首・期末の純資産と当期純利益

期首貸借対照表

資 産 3,200,000	負 債 700,000
	期首純資産 (ア)

期末貸借対照表

資 産 3,460,000	負 債 735,000	
	期首純資産	期末純資産
	当期純利益 (エ)	2,725,000

(ア) 期首資産＝期首負債＋期首純資産の関係より

$$\text{期首純資産} = \text{¥}3,200,000 - \text{¥}700,000 = \underline{\text{¥}2,500,000}$$

期末資産＝期末負債＋期末純資産の関係より

$$\text{期末純資産} = \text{¥}3,460,000 - \text{¥}735,000 = \underline{\text{¥}2,725,000}$$

(エ) 期末純資産＝期首純資産＋当期純利益の関係より

$$\text{当期純利益} = \text{¥}2,725,000 - \text{¥}2,500,000 = \underline{\text{¥}225,000}$$

2. 売上原価と売上総利益

仕 入

期首商品	580,000	売上原価 (イ)	3,500,000
純仕入高	3,520,000	期末商品	600,000

損益計算書

売上原価 (イ)	3,500,000	純売上高	5,450,000
売上総利益 (ウ)	1,950,000		

(イ) 売上原価＝期首商品棚卸高＋当期純仕入高－期末商品棚卸高 の関係より

$$\text{売上原価} = \text{¥}580,000 + \text{¥}3,520,000 - \text{¥}600,000 = \underline{\text{¥}3,500,000}$$

(ウ) 純売上高－売上原価＝売上総利益 の関係より

$$\text{売上総利益} = \text{¥}5,450,000 - \text{¥}3,500,000 = \underline{\text{¥}1,950,000}$$

第3問

6月20日 宮城商店から仕入 @¥500×800個=¥400,000

(借) 仕	入	400,000	(貸) 買	掛	金	400,000
⇒仕入帳			⇒仕入先元帳			

6月25日 宮城商店に対する買掛金の支払

(借) 買	掛	金	200,000	(貸) 当	座	預	金	200,000
⇒仕入先元帳								

第4問

6月8日 商品の仕入

前月繰越(100個×@750)とは単価が違うので、合算して記入することができない。よって

{	前月繰越	100個×@750=75,000
	仕入分	300個×@700=210,000

として併記する。

6月12日 商品の払出

先入先出法なので、払い出す200個中、先に仕入れた100個(@750)を全て払い出す。

残りの100個分を、後からの仕入分(@700)で払い出す。

300個中100個払い出すので、残りは200個(@700)

6月16日 商品の仕入

仕入前残高(200個×@700)とは単価が違うので、合算して記入することができない。よって

仕入前残高	200個×@700=140,000
仕入分	100個×@800=80,000

として併記する。

6月27日 商品の払出

先入先出法なので、払い出す250個中、先に仕入れた200個(@700)を全て払い出す。

残りの50個分を、後からの仕入分(@800)で払い出す。

100個中50個払い出すので、残りは50個(@800)

第5問

決算整理事項

1. 売上原価の計算

期首商品棚卸高は残高試算表より 420,000

(借) 仕 入	420,000	(貸) 繰越商品	420,000
繰越商品	490,000	仕 入	490,000

2. 貸倒引当金の計上

売掛金の期末残高は 300,000

$$300,000 \times 1.0\% = 3,000$$

差額補充法で処理するので繰入額は $3,000 - 1,000 = 2,000$

(借) 貸倒引当金繰入	2,000	(貸) 貸倒引当金	2,000
-------------	-------	-----------	-------

3. 減価償却費の計算

備品の取得価額は 1,500,000、耐用年数 5 年、残存価額はゼロなので、年間の減価償却費は、

$$1,500,000 \div 5 = 300,000$$

直接法なので、備品から直接控除する。

(借) 減価償却費	300,000	(貸) 備 品	300,000
-----------	---------	---------	---------

4. 現金過不足の処理

1,000 を雑損(費用)として処理する。

(借) 雑 損	1,000	(貸) 現金過不足	1,000
---------	-------	-----------	-------

5. 引出金の処理

引出金の金額 80,000 を資本金から控除する。

(借) 資 本 金	80,000	(貸) 引 出 金	80,000
-----------	--------	-----------	--------